

Q&A (日本語)

MR. IEMURA: おはようございます、レクスターさん、ランスさん、いつもセッションに参加していただきありがとうございます。実は聞いている皆さんはデイトー・テレコムに活動に大きな関心を持っております。現在は技術監査が終了したと思いますので、DITOテレコムの活動とビジネスプラン、そして実際の運用開始時期などをお知らせいただきたいと思います。

MR. LEXTER: はい、DITO テレコムのコミュニティについても、概要をお伝えしたいと思います。実際、運用は既に開始しております。

MR. IEMURA: 既に運用されてるんですね。

MR. LEXTER: はい、彼らは3月初旬に正式なオペレーションを開始しました。残念ながら期待通りには進まなかったもので、現在は主にビサヤとミンダナオの2つの地域を中心に、国内の一部の地域での運用にとどまっています。今のところ、ルソン島ではまだ活動していません。実際、技術監査では、少なくとも人口の3分の1をカバーする能力があり、今後5年間で少なくとも人口の75%をカバーする能力があることが示されています。しかし、残念ながらすべての携帯電話に対応しているわけではなく、DITOのSIMカードが使える携帯電話はほんの一握りだと思います。残念ながらiPhoneはまだDITOのネットワークに対応していませんが、いずれは対応させてサービスを利用できるようにする予定です。彼らは、今後5年間で利益を上げることができると確信しており、実際に経営陣からのプレ・ステートメントでは、操業5年目ですでに利益を上げることができると述べています。このように、DITOには独立した財務評価が行われています。目標価格は、割引キャッシュフローに基づく公正価値推定値が10.30ペソから12ペソの間にあるので、株式に投資する場合は、このことを念頭に置くべきだと思います。したがって、理想的には、DITOをこのレベルのどこか、あるいはどこか下のレベルで買うのが良いと思います。10ペソ以下で買えれば良いと思いますが、目標価格は12ペソ程度なので、最近のDITOの19ペソまでの上昇はやり過ぎではないかと考えています。19に戻ることは不可能だとは言いませんが、かなり高価だと考えています。ですから、今回出てきたすべてのニュースですでに市場で10の価格になっていると思いますので、あとは会社が今後数年間で計画を実行できるかどうかだと思います。

MR. IEMURA: なるほど。オーケー

MR. IEMURA: レクスターさん、プレゼンテーションありがとうございました！いくつか質問があります。DITOは3分の1をカバーしているとおっしゃいましたが、これはDITOだけの話で、既に通信会社としてはGLOBEやPLDTもあるので、供給過多のような気がするのですが。

MR. LEXTER: ええ、DITOに限ってはその通りです。

MR. IEMURA: もう？

MR. LEXTER: GLOBEとPLDTはすでに人口の90～95%をカバーしているはずですが、DITOはゼロからのスタートなので、1000以上のセルタワーを建設しなければなりませんでした。

MR. IEMURA: ああ、なるほど、なるほど。3分の1のカバー率とは、物理的な面積が3分の1ということですか？

MR. LEXTER: そうです、そうです。

MR. IEMURA: 人口ではなく？

MR. LEXTER: 実際に指定されたのは、人口の1/3でした。

MR. IEMURA: 人口ですか、なるほど、なるほど。最初の1年間は人口の3分の1、5年後には人口の75%ということですか？

MR. LEXTER: そうです、その通りです。

MR. IEMURA: 5年後ですか？ ああ、そうですか、では次の質問ですが、フィリピンでは多くの人がプリペイドタイプの定額制を利用していると思いますが、DITOや他の通信会社では、プリペイドと月額制の割合はどうなっていますか？

MR. LEXTER: DITOはプリペイドとポストペイド(月額制)の両方を提供することを計画しており、最終的にはホームブロードバンド分野にも参入する予定ですが、ビサヤ、ミンダナオ地域をターゲットにした場合、従来のプリペイドを利用する人が非常に多いと思います。PLDTとGlobeはまだプリペイド側に大きく支配されています。彼らが利益率を上げるためには、プリペイドの加入者がポストペイドプランに移行するというゆっくりとした変化が実際に見られます。一般的な通信会社は、固定回線への移行を消費者に納得してもらうために、より良い契約、より良い時間パッケージを提供しています。しかし、一般的に言って、フィリピンの人口はまだプリペイドが圧倒的に多いと思われます。固定回線は20%程度で、残りの80%はプリペイドだと言えるでしょう。

MR. IEMURA: はい、ありがとうございました。

Mr. Iemura: Lexterさん このビジネスにとって非常に重要な資産は、もちろんテレコムタワーです。基本的には、DITO Telecomは自社で通信タワーを建設するのか、それとも誰か資産家からリースを受けるのか、どちらなのでしょう？タワー建設の構造はどのようになっていますか？

Mr. Lexter: 実は自社のタワーと共同のタワーが混在しているんです。

Mr. Iemura: 共有タワーとは、PLDTやGLOBEと共有するということですか？

Mr. Lexter: 数年前、ドゥテルテ大統領は通信会社のタワーシェアリングを認める命令に署名しましたが、特に孤立した地域のために作られた会社もあり、その一部は外注されています。このビジネスに取り組んでいる大手企業のひとつに ABOITIZ があると思います。基本的には、通信事業者の成長ストーリーを利用するために、PLDT や GLOBE も自社のネットワークを構築しているので、基本的には共同で取り組んでいます。DITO は主にトップマーケットに焦点を当てています。したがって、PLDT や GLOBE がそのような特定の場所にいない孤立した地域に進出しました。

Mr. Iemura: 最後の質問です。現在の 5G と 4G の比率と今後の動きを知りたいです。

Mr. Lexter: 現在、5G はまだ 1% にも満たない程度の存在です。しかし、方向性としては、5G はマニラ首都圏や NCR、ルソン島、そしてセブやダバオなどの主要都市や他の州など、密度の高いエリアに集中すると思います。

家村: なるほど、基本的には既存の通信タワーがあるわけですね。4G の場合は、同じタワーを 5G に変更することができるんですね。

Mr. Lexter: はい、その通りです。おそらく細かい再設定だと思いますが、今現在、BGC エリアではすでに 5G サービスが提供されていると思います。私が知っている限りでは、すべての携帯電話が 5G に対応しているわけではなく、IPHONE 12 以上の機種のみが 5G に対応しているので、すべての端末ではありません。

Mr. Iemura: フィリピンにおける 5G の導入速度について、何か報道や記事を見たことはありますか？

Mr. Lexter: 当初の予想では、少なくとも、とまでは言いませんが、平均して毎秒 500 メガバイトから最大で毎秒 1 テラバイトとカウントされています。

Mr. Iemura: 私の質問は、フィリピン市場への 5G の導入速度です。現在、99% が 4G なので、5G は 10%、20%、50% のタイムラインと速度になるのでしょうか？

Mr. Lexter: 残念ながら、カバーする範囲についての数字は公表されていませんが、私はこれには時間がかかると考えています。特に、この技術はフィリピンでは比較的新しいものなので、今後 5 年から 10 年の間に 1/3 程度になるのではないかと考えています。マニラ首都圏は経済全体の大部分を占めていますから、首都圏の NCR 地域に焦点を当てていると思われます。首都以外のほとんどの地方は、インフラが整備されていないので、首都以外で 5G ネットワークを立ち上げるには時間がかかるでしょう。

Mr. Iemura: どうもありがとうございました。

Mr. Lexter: 追記すると、実はここにGLOBEのメモがあります。5Gの目標は、1年以内にマニラ首都圏の80%をカバーすることです。しかし、これはマニラ首都圏だけの話で、国全体の話ではありません。

Mr. Iemura: もしかしたらこのスピードは日本よりも高いのでは？

Mr. Lexter: 500 mbps?

Mr. Iemura: いいえ、マニラ首都圏でのカバー率80%という普及の早さです

Mr. Lexter: 誤解のないように申し上げますが、これはマニラ首都圏に限った話で、全国の話ではありません。

Mr. Iemura: ありがとうございます。DITOテレコムはモバイルネットワークに注力しています。DITOテレコムは、固定回線のモバイルサービスは行っていないのですか？

Lexter: 今のところはまだですが、拡大する予定です。しかし、今はモバイル分野に集中しています。